



ルーテル学院だより

No.133
2017.12.1

発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611 FAX: 0422-33-6405
発行人 江藤 直純

インターンシップ体験談

福祉相談援助コース3年 梅田 梨那
私立北豊島学園高等学校出身

した。また「たくさんあり過ぎて自分の適職を選びきれない」というジレンマをもたっています。

将来を真剣に考える

インターンシップゼミ（事前教育）

ゼミでは、豊富に配信される情報の中で、適切で良質な情報を選択する方法を学びます。ここでは職業をイメージだけではなく職務内容を研究すること、就職への動機づけと自分の適性を客観的に捉え、自分の将来について考える機会を提供します。同時に、インターンシップ生としての倫理観や社会人としての態度を学びます。

可能性を広げる

インターンシップ（就業体験）

社会福祉に関連する法人やボランティアグループはもちろん一般企業まで、学生の希望に応じて様々な分野への就業体験をサポートしています。5日単位であれば、同一の職種別の機関や全く違う職種など、組み合わせは自由です。実際に就業体験することにより、仕事とのミスマッチを防ぎ、輝かしい社会人の第一歩を、自信を持って歩み始められるよう支援しています

「学生」から「社会人」へ

就活を含めた就業体験は、「学生」から「社会人」への準備といえます。この経験は学生自身を成長させ社会人としての心構えとなり、報告会の振り返りでは他職種への見識を深めます。今後本学に入学した学生が一人ひとり自立できるよう教職員一丸となってサポートしていきます。



困難や悩みに対して、ソーシャルワーカーが医師や看護師、リハビリスタッフなど他職種と信頼関係を築きながら連携し、その専門性を発揮することが支援において大切であると感じることができました。私はインターンシップを体験することで、社会へ出ることの責任感や専門職として本人を尊重し、支援を行う難しさを学びました。この経験から自身の目標が明確になり、

学生生活の中で様々な学びや体験を通して将来人々の役に立てるようになりたいと感じた10日間でした。

臨床心理コース3年 園山 幸
埼玉県立人間向陽高等学校出身

私は、新宿区にある新宿区立障害者生活支援センターという福祉分野での自立支援の就業体験をしました。自立支援といっても様々な支援方法があり、ここでは自立訓練、宿泊型自立訓練、短期入所、相談支援、通所などを行っていました。私は自立支援プログラム、個別支援の場面に参加し、月に一度行われる外出レクでは東京タワーに行きました。プログラム内容は曜日によって異なり、社会生活力プログラム、認知機能リハビリテーションなど利用者が興味を持っているものを自分で選んで参加するものでした。私は、臨床心理で学んできたことを改めて別の領域で学ぶこと、精神疾患を持つている方への支援をするのかを体験したいと考えていました。実際にインターンシップに参加してみて、どのように利用者と関わっていけばよいのかわからず何度か戸惑うことがありました。一から関係をつくることの難しさを改めて感じることで、日々の小さなコミュニケーションの大切さを実感しました。最終日に近づくにつれ、自分の不足している部分が見えて、ともに福祉分野に対する興味を深めることができました。インターンシップの5日間の体験は今後の将来の職業選択を絞るにあたってとても貴重な経験になりました。



臨床心理で学んできたことを改めて別の領域で学ぶこと、精神疾患を持つている方への支援をするのかを体験したいと考えていました。実際にインターンシップに参加してみて、どのように利用者と関わっていけばよいのかわからず何度か戸惑うことがありました。一から関係をつくることの難しさを改めて感じることで、日々の小さなコミュニケーションの大切さを実感しました。最終日に近づくにつれ、自分の不足している部分が見えて、ともに福祉分野に対する興味を深めることができました。インターンシップの5日間の体験は今後の将来の職業選択を絞るにあたってとても貴重な経験になりました。

愛 祭 報 告

500年の想いを込めて

福祉相談援助コース2年 河野 義高
都立八王子北高等学校出身

私たち第39回愛祭実行委員会は「愛縁喜縁」500年分の想いを込めて「」をテーマに掲げて開催の準備を行ってきました。今年度も関係各所の皆様のご理解とご協力のおかげで無事に愛祭を開催できました。今後は宗教改革500年という記念すべき年でもあり例年とは一味違った愛祭となりました。例年出店している団体に加え学生の有志によって数多くの屋台が並んだ食品企画、台風の影響も



味違った愛祭となりました。例年出店している団体に加え学生の有志によって数多くの屋台が並んだ食品企画、台風の影響も



あり風の強い中声を張り上げて盛り上げてくれたステージ企画、子どもが楽しめるように綿あめやストラックアウト等の企画を準備してくれた子ども企画、校内を楽しんで回れるように実行委員が行ったスタンプリー企画、そして多くの人にルーテルを知ってもらうために行ったアーティストライプなど学生、教職員が一つになってご来場者の皆様に楽しんでいただけるように尽力してまいりました。来年度の愛祭はより一層楽しんでいただけるように準備をしてまいりますので、またのご来場を心よりお待ちしております。

クリスマス オープンキャンパスのお知らせ

2017.12.16(土)

予約不要

12:30	受付
13:00	チャペルでのクリスマスコンサート (出演：聖歌隊、ハンドベルクワイア・ラウスアンジェリカ)
14:00	模擬講義 「共に生きる」を学ぶ 石居基夫 教授 「海は森の恋人」 藤井英一 教授 ～人の生活と森・川・海の繋がりを～
15:00	大学紹介
15:30	入試説明会 個別相談会

オープンキャンパスのお問い合わせ
電話 0422-32-2949
メール koho@luther.ac.jp

行事予定

12月 8 日(金)	冬フェス
12月 13 日(水)	キャンパスクリスマス礼拝
12月 16 日(土)	オープンキャンパス 大学院オープンセミナー
1月 23 日(火) ～1月 30 日(火)	後期試験期間
3月 9 日(金)	卒業式
3月 24 日(土)	ジョイントコンサート

特集 宗教改革500年

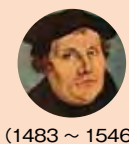
— 私たちもここに立つ —

チャレン 河田 優



ルーテルとは？

ドイツの宗教改革者、ルター(Martin Luther)のことです。



(1483 ~ 1546)

この大学の由来でもあるマルティン・ルターとはどのような人だったのでしょうか。

なぜルターではなくルーテル？

それは、明治時代の人々が「Luther」を「路帖」と漢字で書き表し、「るつて」と読んだからです。この呼び方が今でも残っているのです。

今から500年前の1517年10月31日、後に「95か条」と呼ばれる提題がドイツのヴィッテンベルク城教会の扉に貼り出されました。貼り出した人物はマルティン・ルター。彼は、教会が売り出していた死後の苦しみが減免されるといふ贖宥状(免罪符)に関して疑問を抱き、教会に神学的な討論を呼び掛けたのです。ところが、ルターの意図を遥かに超え、「95か条」の提題はヨーロッパ中に波紋を呼び、やがては世界中に影響を与える宗教改革の発端となったのです。

ルターはこの時、修道士として生活を送り、大学でも聖書を教えていました。神の救いについて熱心に学び、またルター自身も「どうすれば神様に救われるか」という問いの答えを求めていました。その問いどころはいつも聖書でしたが、ルターがどれほど聖書を読んでも、当時の教会が告げるように「贖宥状を購入すれば死後の苦しみが減免される」というようなことは書いていません。むしろ救いは「神の恵み」にあるのであって、私たちは「聖書」からそれを知り、与えられた「信仰」をもってそれを受け取ると書かれています。ルターはそのことを自らの信仰の基盤としたのです。

豆知識1

ルターと教育

ルターは「国民皆教育の提唱」を行ないました。このことは、それまで身分や職業が固定化していた階層社会に、教育によって、新しい地位や仕事を得られる可能性を開きました。

豆知識2

ルターがクリスマスツリーの飾りつけを始めた??

ルターはツリーを室内に置き、それにろうそくを置いて、飾りつけ(デコレーション)の習慣を始めたといわれています。

豆知識3

ルーテル学院大学は日本でいちばん小さな大学!?

1909年に熊本に路帖神学校を開校し、1964年に神学部神学科を設置してルーテル神学大学という名称で開校しました。1976年に社会福祉コースを開校した当時は、日本で一番小さな大学と言われていました。

秋の高校生のための体験講座を開催して

教授 原島 博



福祉・心理の視点から「心」「社会」「世界」とのつながりを考えることをテーマに、高校生18名の参加者を得て、本学キャンパスで秋の高校生のための体験講座を10月9日に開催しました。石居教授のつながり、アイズブレイクで始まり、参加者の緊張がほぐれました。講義では、援助者として、人は常に「つながり」の中で生きていて、これを理解しておくことの大切さを考えました。続いて、特別プログラムとして、聖書の中に癒しの楽器として登場するハープをフラナリー先生が実演し、上村准教授が通訳する形式で、音の響きから「つながり」を体験しました。

午後の講義では、私がチョコレートから見える世界との「つながり」をテーマに、カカオ農園で働くガーナの子どもたちと私たちの「つながり」について考えました。日本ではチョコレートの原材料となるカカオの70%を西アフリカのガーナという国から輸入していること、カカオ農園では児童労働が行われており、子どもは長時間労働により、心身の発達に影響を受け、また学校に行く機会を失うこととなります。このような課題に対してフェアトレード(公正な貿易)という仕組みを通して、カカオ農園で働く子どもたちの権利が守られていること、また農園労働者が自ら生産者組合を作り

保護者、社会人、編入生のためのオープンキャンパスを開催しました。



高校生を対象として行っている普段のオープンキャンパスと少し趣向を変えて、保護者の方や、社会人・編入生を希望している方のためのオープンキャンパスを11月4日に開催しました。

高校生向けのオープンキャンパスでは大学の授業体験などをしていただいていたのですが、今回は、実習やインターンシップを通じて学生の成長を大学がどのように支援しているかを紹介しました。あわせて実習やインターンシップを経験した学生の報告も聞いていただきました。本学では実習教育を社会で通用する力をつける重要な学びととらえ、実習前から実習後まで継

統的な指導を行っています。同日開催していた学園祭で行っていた学生たちの実習報告も見学していただき、在学生がどのように実習を経験し学んできたかを見ていただきました。社会人入試希望の方からは「学生のしつかりとした考え方、姿勢に感銘を受けた」とのコメントをいただきました。

また、少人数だからできる一人ひとりに対応した就職や進学に向けたキャリア支援についても説明しました。キャリア支援は自ら学び考える力を育てる支援でもあります。保護者の方には「キャリア支援についても、少人数で手厚く対応されていることがわかり、安心した」とのコメントをいただきました。受験生の保護者の皆様、社会人入学、編入学を検討している皆様に、今回の企画が参考になりましたら幸いです。

入試日程

- 1月27日(土) 一般入試S日程
- 2月2日(金) 一般入試A日程
社会人入試Ⅱ期
- 2月7日(水) 一般入試B日程
- 2月21日(水) 一般入試後期日程
- 3月3日(土) 3月入試 社会人入試Ⅲ期

センター試験利用 入試出願期間

- I期 12月19日(火) ~ 1月24日(水)
- II期 2月5日(月) ~ 2月14日(水)
- III期 2月16日(金) ~ 2月26日(月)

詳細は入学試験要項をご覧ください。
(入試に関するお問い合わせ)
入試事務局

☎ 0422-314611 (代表)

(大学案内等資料請求)
企画広報センター

☎ 0422-3212949

地域の学校設備の改善に努力していることを学びました。参加した高校生はガーナのカカオ農園の子どもたちとの悲しい「つながり」があることを理解することができました。最後に、参加者一人ひとりがガーナの子どもたちとのあるべき「つながり」について両国の経済関係や解決策について討議しました。今回の体験講座は3月21日(祝)に行います。



(参加者の感想)
・とても有意義な体験だった。
・対人援助を中心とした講座の中で、さまざまなつながりを考える機会となった。
・在学生からさまざまな話をきいて、大学生活に対するイメージが広がった。
・ディスカッション形式での授業が楽しかった。